

〔第25回〕

GSRC seminar

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

健康寿命延伸を目指したサルコペニア の分子機序の解明

中枢性老化-骨格筋代謝-運動機能制御研究プロジェクトチーム

伊藤 尚基 プロジェクトリーダー

2024年4月16日(火)16時00分～

第1研究棟2階大会議室

超高齢社会における日本において、加齢に伴う筋量・筋力の低下(サルコペニア)は健康寿命延伸を阻む大きな要因となっている。骨格筋は運動機能と代謝機能を併せ持つ組織であり、肝臓や脂肪といった他の代謝臓器と密接に連携しながら全身性代謝を制御している。しかし加齢に伴う骨格筋機能の低下が、他の代謝臓器にどのような影響を与え、健康寿命低下に繋がっているかは明らかになっていない。

本研究課題では加齢性疾患に深く関わることで明らかになっているニコチンアミドアデニンジヌクレオチド(NAD⁺)代謝に着目し、老齢個体における骨格筋NAD⁺代謝の低下が、骨格筋機能への影響に加え、肝臓・脂肪も含めた他の代謝臓器に与える影響について焦点を当てている(22-30)。特にNAD⁺維持に必須なNAD⁺ salvage経路の律速酵素Namt1に着目し、骨格筋Namt1の解析を中心としたこれまでの進捗状況を概説し、今後の展望について紹介したい。

座長：伊藤 尚基 プロジェクトリーダー

連絡先：GSRCセンター長室(内線5002)